



みなさんの力で“自閉症の青年が主人公”の映画をつくらせてください！！



映画「ぼくはうみがみたくなりました」制作準備実行委員会



「ぼくはうみがみたくなりました」はclassic autism” と呼ばれる典型的なタイプの自閉症の青年を主人公として描いた小説です。

今、この作品の映画化の企画が進行中です。

自閉症の長男を事故で失った脚本家が、ずっと一緒に生きていきたかった息子への想いを胸に、全国の障害児を育てている親たちにエールを送りたいという気持ちを籠めてつくる珠玉の作品です。

<作者&実行委員長（山下久仁明氏）からのコメント>

私は東京都町田市で「フリースペースつくしんぼ」という障害児のための放課後活動の場を運営しています。自閉症だった息子のためにと、12年前にスタートした施設です。

が、2006年3月28日に、その自閉症の長男、大輝（ひろき）が突然亡くなりました。大好きな散歩の途中に線路に入り、電車に接触してしまっただけです。中学校を卒業したばかりの15歳。八月から町田養護学校の高等部に進学する予定でした。

あの事故から2年。大輝のためにできる最後の仕事と思い、この映画製作に取り組んでいます。応援頂けたら幸いです。

左の2冊は、ともに「ぶどう社」から発売されています。

「心のコンサート」と山下氏は、1つの曲「ぼくは生きている」を通して出会いました。

「ぼくは生きている」

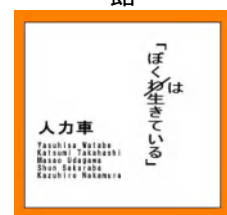
作詞 井上達也

(1番)

ぼくは生きている せいっぱい生きている
小学校の入学式 ずっとずっと泣いた
人がいっぱい体育館マイクの音が響く 体育館
ほかの人には 分からないかもしれないけれど
本当に怖かったんだ 本当につらかったんだ
普通の人とちよっと違った ぼくの心
車を見ると気になって仕方がない
漢字や計算よく分からないけれど 車の種類はすぐ分かるんだ
それって変かなおかしいのかな
ぼくの心は白いキャンパスそんな心に絵を描く
人から見れば下手かもしれない立派な絵だって描けやしない
ぐちゃぐちゃダメって人はいう
でも、そのぐちゃぐちゃの中ぼくは生きている
自分の世界で自分の歩みで せいっぱい生きているんだ

(2番)

ぼくは学んでる ゆっくりゆっくり学んでる
1年生の7月に はじめて言葉が口に出た
ずっと話せなかったけど 心を伝えられなかったけど
心と言葉つながってきたつながってきた
本当に嬉しかったんだ本当に楽しくなったんだ
普通の人とちよっと違ったぼくの心
言葉が口からいっぱいいっぱいあふれてくる
いつでもどこでも止めることはできないけれど
ぼくの心は叫んでる話せるだけで楽しいんだよ
ぼくの心は大きな半紙そんな心に字をつづる
人から見れば下手かもしれない 立派な字だって書けやしない
ゆっくり進むぼくの時間
でも、そのカメの歩みでぼくは生きている
自分の世界を自分の道を ゆっくりゆっくり生きているんだ



山下氏は、この歌詞の姿が幼少時の大輝さんの姿にそっくりだと話していました。